

デイリー・ジーザス・ニュース #273

受難週の火曜日…試練と教えの日
イエスの弟子たちへの個人的な教え：「オリーブ山の説教」

第8部：イエスは来臨の準備を命じる：「十人の処女」のたとえ話
マタイ 25. 1-13

1そのときには、天の御国は、それぞれあかりを持って花婿を迎えに出て行った十人のおとめのようなものです。2 そのうちの五人は愚かで、五人は賢明でした。3 愚かな彼女たちはあかりは持っていましたが、油を持っていませんでした。4 しかし、賢い彼女たちは、あかりと一緒に、つぼに油を入れて持っていました。5 花婿の来るのに長い時間がかかったので、彼女たちはみな眠くなって眠ってしまいました。

6真夜中に、「花婿だ！ 迎えに出なさい！」と叫ぶ声が響き渡りました。

7そのとき、おとめたちはみな起きて、自分のあかりを整えた。8 愚かなおとめたちは賢いおとめたちに言った。「油を分けてください。あかりが消えそうです。」

9彼らは答えました。「いいえ、無理です。私たちとあなた方の両方に足りなくなるかもしれません。その代わりに、油を売っている人のところに行って、あなた方のために買ってきてください。」

10彼女たちが油を買いに行く途中、花婿が到着しました。用意のできていた処女たちは、花婿と共に婚宴に入りました。そして戸が閉められました。

11その後、ほかの人たちもやって来て、『主よ、主よ、戸を開けてください』と言った。

12しかしイエスは答えて言われた。「はっきり言います。私はあなた方を知りません。」

13「それゆえ、私はあなた方に命じる。警戒を怠らないように。あなた方は、その日、その時がいつかを知らないからである。」

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = ^{MT}、マールク = ^M、ルカ = ^L、ヨハネ = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、**赤いイタリック体はイエスの言葉を示します**。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト	
位置	エルサレム郊外のオリーブ山
タイムライン	4月上旬 (39ヶ月目)
イエスの生涯の文脈	第8段階：受難週
	C. 火曜日：テストと指導の日
	イエスの弟子たちへの個人的な教え：「オリーブ山の説教」
タイトル	第7部：イエスは来臨の準備を命じる：「10人の処女」のたとえ話

デイリー・ジーザス・ニュース #273

コメント：

今日の朗読では、イエスは3回続けてたとえ話を語り、ご自身の来臨に備えて警戒を怠らないことの大切さを強調しました。今回は、忠実さという側面が加わりました。

5人の処女は愚かでした。事前に準備する機会を逃したからです。人は賢明でした。事前にできる限りの準備をしました。これが教訓です。

事前の準備という考えは、受難週において新しいものではありませんでした。受難週が始まる前の最後の夜、ラザロの兄弟マリアが、イエスへの愛と献身の証として、自身の埋葬用のナルドでイエスに油を注いだことを思い出してください。イエスは彼女の贈り物を、福音書の物語の一部として永遠に記憶されるものへと高めました。

マリアはイエスの遺体に「前もって」油を注いでいました。イエスの死後、遺体を適切に準備する時間はほとんどありませんでした。すべての作業は慌ただしく、不完全なものでした。イースターの朝、何人かの女性がその作業を終えようと空っぽの棺桶へ行きましたが、もう遅すぎました。イエスは既に復活されていたのです！マリアが事前に油を注いだことは、彼女がそれを徹底的に、そして事前に行っていたため、イエスにとって非常に大きな意味を持っていました。これは私たちと、そしてこのたとえ話とどのような関係があるのでしょうか。

この世でのみ得られる服従の表現方法があります。神の国の時代においては、すべてが神の御心に従って行われます。神の完全な計画から逸脱することは決してありません。しかし、この世において、私たちは服従するかどうかを選択することができます。この世は、服従と忠実ではなく、不服従と罪によって特徴づけられます。だからこそ、この世で忠実に従うことは、それが普遍的な規範となる前に、はるかに価値のあることなのです。

さらに、神の御心のいくつかの側面は、この時代の終わりに必要ではなくなります。例えば、伝道と宣教—主がこの時代に私たちに与えてくださった主要な務め—is、この人生でしか行うことができません。私たちはそれを神の国の到来に「先立って」行う必要があります。なぜなら、この奉仕の必要性はイエスの最終的な到来とともになくなり、神の国では存在しなくなるからです。

「警戒」し続けるためには、善行を「前もって」準備しておかなければなりません。なぜなら、イエスが来られたら、ある種の従順はもう手遅れになるからです。機会の扉は永遠に閉ざされてしまうのです。

たとえ話に登場する賢い処女たちは、花婿が現れた時に挨拶し、付き添う準備ができるよう、事前に油を買っておきました。彼女たちは機会があるうちにできる限りのことをしたため、「事前の準備」に何も付け加える必要はありませんでした。一方、「愚かな処女たち」は事前の準備を一切せず、そのため、準備が不十分な状態で花婿を迎えました。

デイリー・ジーザス・ニュース #273

証し、宣教、弟子訓練、奉仕、犠牲といった務めを通して神に仕えることができるのは、この生涯だけです。今、この地上でイエスに従うことでイエスに似た者となろうと選択できるとしても、イエスが来られた後は、その選択はもはや私たちにはできないのです。

この生涯は、私たちが二度とできない方法で、犠牲的な従順を通して神を愛する、わずかな機会の窓です。

応用：

あなたは主に対して犠牲的な従順を示す機会を逃していませんか？

主の来臨に備えて警戒を怠らないということは、主が来られる前に機会をつかむことを意味します。

今日、あなたの日常生活に、どれだけ「高度な」従順さを加えることができますか？今週は？

あなたは何をしますか？